

編集部員が約1年履いて感じたブーツの実像

「街履きブーツ」 長期レポート

履けば履くほど自分の足にフィットするのが靴の魅力だ。
特に革のブーツは汚れも味となり、愛着が増してくるモノだ。
ここでは本誌3月号のブーツ特集で紹介した普段履きできるブーツを
編集部員が1年近く履いたインプレを紹介。
長期間履いたからこそわかる、そのよしあしを語ろう。



JAPEX

No.145

ガエルネのフラッグシップと言うべき当モデル。革全体は硬く厚いので慣れるまで3カ月近くかかったが、内装は子牛の柔らかでしっとりとした革を使い、甲部分を優しく包み込んでくれるので長時間履いても革が硬くて足が痛くなることはなかった。ただ、表面革が傷つきやすくステップなどの金属部に強く当たるとはがれることもあった。それ以外は文句のつけようがない。設計は日本人の足に合わせ、幅が広く、甲が高い作りで、つま先はピッタリでも窮屈感はない。感心したのが、ハードに履いたにもかかわらず、ソールの減りがほとんどないこと。丈夫で疲れ知らずの一足だ。(岡野訓人)



“しっとり革”のおかげで
長時間履いても疲れしない

